文教は"一生的財産(財産)"です!

初等教育学科4年　汪芳さん(情報教育コース)

初教20期生(4年生)には、中国(大連)からの留学生の汪芳さんがいます。今回、汪さんに文教での大学生活を振り返ってもらいました。インタビューは、寮仲間で熊本県出身の井上美和とママさん学生(2児の母)の小村瑞与です。

井上 汪さんと初めて会ったのは寮だったよね。日本語が上手で大人っぽい人だなぁ〜っていう印象だったよ。寮の平岡先生も礼儀正しくてユーモアがある人だって汪さんの印象を話されてたよ。慣れない寮での生活は大変なこともあったんじゃない?

汪 今は一人暮らしだけど、寮での2年間はとても楽しかった。日本での暮らし方や食文化を知ることもできたし、何よりも友達や先生がたとのふれあいは本当に感謝しています。おかげで、味噌汁も納豆も大好きになったよ!

小村 勉強面で、大変なことはなかった?

汪 試験も私たちと同じようにがんばっていたよね。

井上 ○○先生や△△先生のレポートとか大変じゃなかった?

汪 どうせ日本語ができないからいいよ〜っていう逃げの気持ちを持ってしまう時もあった。でも日本語ができないからレポートが書けないっていうのは結局言い訳だと気づいたよ。自分自身の中に認識や知識があれば、ちゃんと書けると思う。それらがないと、母国語でも書けないんじゃないかな。書けないときは自分の中に何もない時だね。

小村・井上 はぁ〜…二人とも納得…

井上 汪さん、3年での教育実習のこと聞かせて!

汪 私は可愛の小学校で実習させていただきました。もうハラハラドキドキの連続だった。4年生のクラスでは中国のことを紹介したり、算数の授業もしました。私が困らないように、みんなが授業に積極的に参加してくれたし。いつもは手をあげない子があげたりして感動しました。

(左から、小村さん、汪さん、井上さん)

6年生での社会では中国と日本の歴史のことも聞かれて、びっくりしたけど、「今の平和な生活は、昔の人々の戦いの結果だから、歴史は忘れないで。」と説明しました。大変だったけど、やりがいがありました。とても楽しかった。日本の学校で教育実習までやって、私ってすごい!って思ったよ(笑)

井上 うん、私も実習で子どもの力のすごさを感じたよ。授業も一人では決してできなかった。子どもが助けてくれて一緒につくりあげたよ。

小村 そうだね。実習の経験は重いよね。子どもたちも中国の汪さんの授業が受けられて良い学びだったね。

さまざまな経験を積んで、さぁ、これから汪さんは何を目指していくの?

汪 今、私は情報教育コースでPCを学んでいるんだけど、PCの前に座るともう夢中になって、アルバムやカラオケもつくりました。今は卒論の製作中で、中国語教育(会話や発音)におけるソフト作成に取り組んでいます。

井上 じゃあ将来は中国でPCの先生?

汪 PCも学べて、何かの形で、中国と日本に関係した仕事がしたいです。私の叔父も日本語学校の先生だったので、そういう選択も考えているんだけど…。

小村 それでは最後に、汪さんの日本での生活を支えた言葉を教えてください。

汪 人の温かさがなかったら今の私はここまでがんばれなかったと思う。文教でのたくさんの人たちとのふれあいは、私の一生の財産です。だから、今まで私を支えてくれたすべての人たちに謝謝!"人は一人では生きていけない"これは私の祖母がいつも言っていた言葉です。

井上 汪さんが得意な絶品ギョーザの作り方を教えてくれたおばあちゃん?

汪 そう。中国では料理も親子のコミュニケーションだよ。今がらこちそうしようか?

井上・小村 やったぁぁぁ〜(終)

新人登場

コンビニに行けば、いつもニッコリ笑顔で迎えてくださる中島先生に、4年の糸見がインタビューしました。

学 青年海外協力隊の「体育隊員」として、中米カリブ海のセントルシア(St)で体育の授業をされたんですよね。St以外ではどのお話を聞かせてくださいますか?

中 一人二人三脚をした時に、子どもたちは前に進もうとロンジョンと必死にジャンプしてました。二人三脚の魅力を念がないんでしょうね。走れるようになって、4人6人と人数をどんどん増やしていった時も、最後には円になって、一直線に並ぶのを私は想像してたんですけど(笑)。先生が、子どもたちに負けないように、意地になってしまって…。友だちと話してなってたり、子連れで教室に立つ先生もいるんですよ。めずらしくないみたいで。新鮮でした。違う世界に入ると、見えてくる物も違ってくるんですよ。色々な不思議も見つけました。

学 それにしても、中島先生の行動力は、本当にすごいですよね。

中 外国にはずっと行きたかったんです。「世界ウルルン滞在記」(東京放送系)とか見るのも大好きで(笑)。高校生の時にはもう、外国で頑張っている人の様子等を見ては、何が自分にできることはないかって友だちと話してたんです。その友だちも協力隊の日本語教員としてフィジーに行ってる。で知らなりたくて。でも、教授を考えた時に、日本で「厳しい、厳しい」って言っているよりは、と思って青年海外協力隊を受けてみたんです。日本でなくても教員はできるんじゃないかって。何するにしても、世界は広いんだから何も小さい日本にとどまらなくてもー?って、ふと思ったんです。世界にはたくさん土地があるんだから。私、またきっと日本をとびだすかも(笑)。

学 学生のみんなに何かお願いします。

中 やっぱり言葉ですね。日本語だけではなく、英語も話せた方が、と思います。もちろん、英語でなくてもいいんですけど。St

では、お金のある人が靴を揃えているんです。だから、貧しい人は出ていくしかなくて。でもStの人は学歴がなくても英語が話せます。言葉を武器として道を拓いているんです。語学が話せるのは自分の世界が広がるっていと思います。でもその反面、日本をきちんと理解しておくことも大切だと思います。広く世界を見つつ、自分の国も同じように見つめていこうと思っています。帰ってきてすぐ、日本の色々な所に行こう!って思いました。行けてないんですけどね(笑)。学生時代に、時間があれば旅行などでもいいので語学にふれられればいいですね。あと4年間で、色々な不思議を見つけている機会があれば、と思います。

学 今日は本当にありがとうございました。またお話を聞きに来てもいいですか。

中 いつでも来てください。

本当に、笑いのたえない楽しい時間を過ごさせてもらいました。ビッチハイクの話やバスでの危機一髪話、折り紙や2000年の太陽の話、たくさんたくさんお話を聞かせてもらいました。気になった人は、ぜひ中島先生の所に行ってみてください。きっと笑顔とともに迎えてくださいますよ。私もまわりへと目を向けながらも、自分をしっかりと見つめていきたいと思いました。

(左が永見さん、右が中島先生)

学…学生　中…中島先生　St…セントルシア

卒業生からひとこと

(平成14年8月現在)

〜「広島文教教育」の巻頭ハガキより〜

(　)は旧姓

幼教(23期生)　佐々木　愛子(松井)
2人目の出産を機に7年間働いた職場を退職し、毎日2人の子どもの育児にてんてこ舞い。上の娘と比べものにならないほど下の息子はワンパクで、さすがの私もケタクタの毎日です。

幼教(24期生)　氷室　美由紀(増村)
4歳の男の子、1歳の女の子の母として、日々忙しく、楽しく過ごしています。上の子は今年から幼稚園に通い始めました。今は母親の立場で幼稚園と関わっていきます。

初教(4期生)　河野　利恵(増田)
初めての音楽専科となり、明けても暮れてもピアノ練習の毎日です。

初教(9期生)　蔵田　賀津美(平田)
ただいま双子を妊娠中!
この大きなおなかはどこまでになるのか…あともう少しで産まれる予定です! ファイト!

初教(10期生)　高橋　早苗(藤田)
8月13日に女児を出産しました。私にちうとも似ていないので美人がな?「妊娠を自覚しなさい。」と言われるほど無茶をしてきたのに頑張って生まれてきてくれた、この子に感謝しています。今とても幸せです。

初教(11期生)　草野　康代
転職して、子どもと関わりたいという夢をやっと実現できました。現在は、公文教室運営と児童館指導員をやっています。4月から学習指導者領の改訂によって、様々な変化が感じられます。教師がやさしい事でもやれる自由がある分、もっと勉強しなきゃと思うこの頃です。やっぱり子どもはかわいい!!

初教(12期生)　五十嵐　裕子(清水)
まなと(1歳7ヶ月)と楽しくやっています。12期生の頑張っている姿を、かわらばん"で見て嬉しく思います。今度は"主婦"の子育て談義コーナー"もいかがですか? 教職には就かなかったけど子育ての中で、文教で学んだことが日々実践的に役立っているんですよ。最近、世界で"考えること"の大切さを感じたと思います。

初教(12期生)　菊田　恵
今年、夢だった芸術に関わる仕事に就くことができました。大学の芸術資料館の学芸員の試験に通りました。今まで経験してきたことを生かして、まだ2ヶ月ですが元気に頑張ってやっております。

初教(13期生)　佐藤　美也子(高橋)
昨年度勤務した小学校で1年生を担当。妊娠のわかった2・3学期は同教室をはじめ、クラスの子ども達の優しさに包まれたマタニティ・ライフでした。4月21日に無事、男児を出産しました。10月に夫の仕事の関係で兵庫県西宮市へ転居します。

初教(14期生)　鈴木　美由紀(大田)
大学を卒業して5年も経ては、大きく環境が変化するものですね。そんな私も、もうすぐ母になります。少しの不安と大きな期待でいっぱいです。ちなみに主人は卒業生と大学を結ぶ「初教がわらばん」の存在に驚いていました。

初教(15期生)　白水　あすさ(松本)
昨年12月に結婚し、8ヶ月…。結婚後に事務の仕事につき、毎日仕事と家事の両立の厳しさを痛感しています。今年に入って地元の小学校に週1回、読み聞かせに行ってます。子ども楽しい瞬間です。

初教(16期生)　堀田　未来
4月から神奈川県で教員をしています。
やっと夢がかないました! 学校の生活や初任者研修に追われ、あっという間の1学期でした。担当は素直でとてもパワフルな2年生です。

初教(17期生)　宮野　真知子
塾講師の仕事にプラス責任ある仕事を任されています。大変ですが、やりがいがあります。子ども達との関わりがとても楽しく感じられます。

初教(18期生)　山本　ゆかり
4月から三重小学校の方で2年生の担任をさせてもらっています。元気に子どもたちと一緒に頑張っています!

突撃レポート!

専攻科進学者(福岡教育大)をたずねて

レポーター　田頭　穂積
岡　利道

今年の3月に卒業した初教19期生の中で、なんと3名の人が福岡教育大の専攻科の試験にパスしました。そして、4月から元気に勉学を続けています。最近、特に関心が高まっている障害児教育を、真剣に学んでいるたのもしい3名。いざ、突撃インタビュー!

雨の広島を出発した田頭・岡は、誰が雨男なのかを議論しつつ、やはり雨の福岡・宗像市にある福岡教育大へと到着しました。キャンパスは、左の地図に示した場所にあります。

さぁ、ここで学ぶのは、原眞子さん(熊本県出身)、山下真央さん(地元・福岡県出身)、山田桂子さん(佐賀県出身)です。いずれも、初教では、教育心理学コースでした。現在は、特殊教育特別専攻科生として学んでいます。専攻科は1年の修業年限で、養護学校専修免許状または養護学校二種免許状が取得できるそうです。

訪問した日は、土曜日の午前中でした。ちょうど附属障害児治療教育センター(写真)で、三人が指導員として活動をしていると聞きましたので、うかがってみました。まず、三人がお世話になっている中山健先生の研究室に案内され、センターのことや研究・活動のことなどをお聞きしました。その後も、中山先生には、お忙しい中を丁寧に施設内を案内していただき、ご説明を賜りました。また、活動後も、時間を割いていただき、3人の勉学の様子や、障害児教育の現状や課題などについて、様々にお話をしていただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

その日の活動は、福岡教育大学附属障害児治療教育センターの「第2部門学習障害児の認知的治療教育プロジェクト」として推進されているもので、中山先生がリーダーとなって進めておられました。学習障害のある小中学生たちを、院生や専攻科生、学部生たちが計画的・継続的に支援するというもので、とてもやり甲斐のある活動であると感じました。

原さんも、山下さんも、山田さんも、各部屋に分かれて、熱のこもった指導をしていました。写真をご覧いただければ、わかると思いますが、田頭・岡ともにとてもたのもしく感じ、嬉しい限りでした。単に講義により障害児の教育や心理・臨床を学ぶだけでなく、実際に障害児の指導実践も行い、講義で学んだ理論をより深め、将来に役立つ勉強を着実に積み重ねさせてもらっている、と思った次第です。

(左から、原さん、山田さん、中山先生、山下さん)

午後になって、3人から学習・生活について話を聞くことができました。1年課程だから、大変忙しく、勉強漬けの毎日だそうです。9月には養護学校での実習もあり、最後には論文もまとめなければならず、息つく暇がないけれども、とても充実感を覚えていると、3人とも語ってくれました。「やる気満々で、体力的にも自身がある後輩のみなさん、是非とも私たちの後に続いてください。」という伝言もことづかりました。

この夏、もちろん3人は、志望県の教員採用試験に受けます。合格を祈っております!

広島文教女子大を卒業した後も、中山先生のような素晴らしい先生とめぐりあい、学習障害をはじめとした障害児教育の専門的な知識を深め、充実した学生生活を送っている原さん、山下さん、山田さん。きっと、いい先生になると確信しています。取材させていただき、本当にありがとうございました。

(訪問日　平成15年6月28日・土曜日)